



SDGsに貢献している東海会会員紹介



SDGsの目標3「すべての人に健康と福祉を」、目標8「働きがいも経済成長も」、目標11「住み続けられるまちづくりを」に貢献しています。

日時：2024年3月29日(金) 13:00～14:30

場所：クロスコートタワー11階 東海会事務局

対象者：岡本 拓也さん

インタビュワー：柘植副会長

報告者：広報委員会 委員 和田 康兵

第四弾としてご紹介させていただきます岡本さんは、父親から事業承継した千年（ちとせ）建設株式会社の代表取締役社長であり、LivEQuality（リブクオリティー）というソーシャルスタートアップを立ち上げた方です。経済性と社会性のバランスを取りながらシングルマザー母子に対して柔軟な条件で住居を提供し、NPOを通じて入居後も親子に寄り添い地域とのつながりづくりをサポートすることで、「深刻な母子家庭の現状」という社会課題の解決に取り組まれている方です。

私が岡本さんを知ったのは、平日夕方のニュースで紹介されているのをたまたま見て、素晴らしい方がいるんだなと思っていたら、なんと公認会計士でびっくりしたのがきっかけです。是非お話を聞いてみたいと思い、今回のインタビューが実現しました。



岡本 拓也さん

— 岡本拓也さん 経歴 —

● 公認会計士

千年建設株式会社 代表取締役社長
株式会社LivEQuality大家さん 代表取締役社長
認定NPO法人 LivEQuality HUB代表理事
公益財団法人PwC財団 理事、グロービス経営大学院 教員

歴 任 NPOソーシャルベンチャー・パートナーズ東京元代表理事
認定NPO法人カタリバ元常務理事兼事務局長

【岡本さんの経歴】

柘植さん：まず、今までのご経歴を教えてください。

岡本さん：大学3年生の時に1年休学し、バックパッカーで世界を旅しました。インドのガンジス川の畔・バラナシにあるマザーテレサの家でボランティアをしたり、東欧、中東からアジアにかけて30カ国以上を旅しました。なかでもバングラデシュは、私にとって大きな出会いがあった国でした。たまたま国際連合食糧農業機関（FAO）に立ち寄った際に、その所長と会う機会があり、その方との話の中で*マイクロクレジットの存在を知りました。それまで銀行口座すら持てなかったシングルマザーを中心とした女性に対して融資を行い、金融ビジネスを通じて貧困層の自立支援を行う企業の存在を知ったのです。国連が行っている支援は、究極的には依存に繋がる可能性がある一方で、マイクロクレジットは自立を促すことに繋がるという点、それを金融ビジネスを通じて実現しているという点に、強い感銘を受けました。

その後日本に帰国し、何をしようかと考えた時に、旅とバングラデシュでの経験を通じて「ビジネス」や「金融」はすごい可能性を秘めていると感じ、特にお金の流れを学ぶことを決意し、色々と調べた結果、公認会計士を目指すことにしました。2003年に公認会計士試験に合格し、当時の中央青山監査法人名古屋事務所に3年間在籍した後、1年間ベンチャー企業に勤め、その後PwCアドバイザリー合同会社で4年間企業再生支援の業務に従事してきました。

そして30代になり、「なぜ会計士になろうと考えたのか？」と原点に立ち戻る瞬間が何度もあり、改めて自分のやりたかったことを考える中で、出会いがあったソーシャルスタートアップに対して経営のボランティア（プロボノ）を始めました。平日は企業再生業務、土日はプロボノをするという二足の草鞋を履く生活を続けましたが、何度も体調を崩し、さすがにこれはサステナブルでないと思いました。そして、考え抜いた末に「一度切りの人生、やりたいことをやろう」と決意し、PwCを退職、独立した後にソーシャルスタートアップの世界に100%入るという道を選びました。

当時プロボノで役員をやっていたソーシャルベンチャーパートナーズ東京（SVP東京）の日本代表に選ばれ、また同様に支援活動をしていたカタリバの常務理事兼事務局長として丸6年間経営を行っていました。